

## 千葉歴史の散歩道

### 「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史

県教育庁教育振興部文化財課学芸振興室副主幹

くろさわ  
黒沢

たかし  
崇



2020年には日本でオリンピック・パラリンピックが開催され、千葉県でも計8競技が実施されます。そこで、千葉県ゆかりの人々の活躍を中心に、明治時代から現代へとつづくスポーツの歴史を振り返ります。

「体育」・「スポーツ」が伝えられたのは明治時代です。政府は体操教師を養成するためアメリカから医学博士を招き、その通訳に市川市出身の坪井玄道<sup>つばいげんどう</sup>があたりました。その後、坪井は体操教師となり、球技の紹介や運動会の導入等を行い、学校体育の基礎を築きました。1912年のオリンピックストックホルム大会でマラソンの金栗四三<sup>かなぐりしろう</sup>らが日本人選手として初出場したことも背景に、大正時代には県内の学校でも体育が積極的に取り入れられました。金栗の指導を受けた山武市出身の秋葉祐之<sup>あきばすけゆき</sup>は木更津中学校の教師となり、樺太ー東京マラソンの走破や、陸上競技の指導を推進しました。その後、1952年ヘルシンキ大会のレスリングで市川市出身の石井庄八<sup>いししょうはち</sup>が千葉県出身者初の金メダリストとなり、1964年東京大会では香取市出身の桜井孝雄<sup>さくらいたかお</sup>がボクシング、神崎町<sup>いそべ</sup>の磯辺サタがバレーボールで金メダルを獲得しています。

一方、千葉市出身の松戸節三<sup>まつど せつぞう</sup>は1964年東京大会の式典課長、いすみ市出身の青木半治<sup>あおきはんじ</sup>は東京大会から1984年ロサンゼルス大会にわたり選手団団長や組織委員会委員長等を歴任し、役員として運営側から大会に尽力しました。1964年東京パラリンピックでは、成田市出身

の高橋春人<sup>たかはしはると</sup>が、ポスター・大会マーク・大会装飾等様々なデザインを行いました。

また、県内には競技用具等を製造する高い技術力をもつ企業が多数あり、現代スポーツ競技を土台から支えています。

#### ◆チバミュージアムフェスタ2020◆

##### パネル巡回展のお知らせ

このような内容を豊富な写真を用いて詳しく説明したパネルの巡回展を行っています。県立博物館だけではなく、県内各地の社会教育施設等にて2020年9月まで実施していますので、お近くの施設でご覧ください。



パネル巡回展チラシ

※巡回展示会場情報はHPを確認ください。

チバミュージアムフェスタ2020

検索



千葉教育 梅 (No. 659) 令和2年2月27日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 秋元 大輔

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204

URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 株式会社白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5 TEL 043-423-1101